

発達障害児に「学ぶ楽しさ」

プログラミング教室開講

自己肯定感高める

ウェル恵明会(浜松)

サステナビジネス
SDGs
10年

県西部で介護事業所や放課後等デイサービスを運営するウェル恵明会(浜松市)は、発達障害児を対象にしたプログラミング事業を進めている。対人関係が苦手だったり、気持ちに波があったりして通常の習い事が困難な子どもにも学ぶ楽しさを伝え、自己肯定感を高める人材教育につなげる。年内にも磐田市で新たな教室を開設し、多様な子どもが集う居場所づくりに力を入れる。

入力して室内用ドローンの操縦にも挑戦する。「集中すると奇想天外な作品も完成させる」。鈴井慎太郎社長(37)は子どもの豊かな発想力に驚かされる。

袋井市川井の放課後等デイサービス「アソベルス能」で、子どもたちの元気な声が響く。2021年に施設の一角で開講したプログラミング教室には、健常児3人も含む小中学生15人が通う。集中してタブレット端末をのぞき込む子もいれば、ソファの上を跳びはねたり、床に寝転がったりする子も。「ペースはさまざま。個々のプランに沿って取り組み、大切なのは失敗しても褒めること」と、職員の岡山麻裕子さん(44)は強調する。

おもちゃのブロックで組み立てた車やギターを、タブレット端末のプログラミングで思い通りに動かしたり音を鳴らしたり。設定を発達障害児を対象に開いているプログラミング教室

—袋井市のアソベルス能

習い事に参加できない発達障害児の保護者から相談を受けて事業化し、放課後等デイサービスのレクリエーションから教室へと発展させた。日常生活では自己肯定感が低くなりがちな子どもにも自信を植え付け、将来の社会を担う人材の育成に一役買う。遊びながらプログラミングの思考を習得する教室は評判を呼び、磐田市にも多様な児童らが共に学ぶ新拠点を設ける。

幼稚園でもプログラミングを交えたSDGs学習などに取り組む。鈴井社長は「人それぞれに個性がある。障害の有無や年齢にかかわ

らず、みんなが成長できる場所をつくっていきたい」と語る。

(経済部・金野真仁)